

令和7年度第2回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	令和7年8月8日（金） 午後3時30分～午後4時30分
開催場所	滝川市役所5階 庁議室
出席状況	【委員】 出席：高瀬委員長、長澤副委員長、大崎委員、金子委員、松田委員、山西委員 欠席：板谷委員 【事務局】 くらし支援課 田上課長、種田補佐、米内係長、目黒主任級主事
議事内容	1 開会 2 協議事項 ①令和6年度年次報告書について【資料1】 ※事務局より【資料1】について説明 ※委員より【資料1】について講評 委 員：目標が1～4あるなかで、1，3，4が地道な活動で、最終的には2の地球環境に昇華していくというような全体像ではないかと感じた。 ※委員へ8月20日を期限に意見を依頼 協議事項 ②第3次滝川市環境基本計画策定方針について ※事務局より【資料2】について説明 ※委員より【資料2】について意見 委 員： 第1次で10年、第2次で10年、その間5年に1回見直しをかけている。次は第3次計画を策定し、また5年後に見直しするというスケジュールを組んでいる。話を聞くと、基本的な方向性は変わらないと思うが、この10年は非常な地球温暖化により、今まで聞いたことがない危険な温度、猛暑酷暑以上のものが出てきているので、この辺が第3次計画のキーになる気がする。目標の地球環境、地球温暖化の関係として地道にやろうとする部分が地球温暖化にどのように繋がっていくのか全体像が、これから見えてくるのだろうと感じた。この辺の今後の方向性について意識していただきたい。 策定方針5の項目について、第2次計画と同じだが、これをたたき台として捉えて良いか。 事務局： 策定方針5の項目については、今後の委員会の議論の中で整理していきます。 ※事務局より参考として国の環境基本計画やキーワード（ウェルビーイング・ZEH/ZEB等）を紹介 委 員： 年次報告書の数値の評価を見ると、地道に進んでいることがわかるが、他の市町の取組はどうか。滝川市は環境都市宣言をしているので、他の市町より特に力をいれているという認識で良いのか教えてほしい。なぜ疑問に思ったのかというと、この委員会に参加することで、滝川市が環境に力を入れていることを知った。つまり委員会に参加しなければ、あまり知られていないということなので、すごくもったいないことだと思う。理想としては、環境に優しい・力を入れている日本の都市の代名詞になるように、情報の発信をすること、子供たちも含め自分たちが住んでいる市は自然環境に力を入れていることを知ることが大事なことだと思う。 環境市民大会での金子委員のプロギングの話でもあったが、ただごみを拾うということではなく、楽しみながら行うということがすごく大事なキーワードだと思う。年次報告書に記載されている活動についても工夫や他の方が実践した内容を発信しあう環境フェアのようなものを行うと、面白さに繋がると思う。

事務局： 他の市町とは比較をしていなかったの確認する。環境省の調査によると滝川市のリサイクル率は他の近隣市である砂川市、歌志内市、深川市よりもリサイクル率が低い。また、色々な取組としては成功しているが、継続しているものもあれば、長く続かずに次の活動に移るものもあるので、活動として定着していない。今後、その辺も含めて次の計画に反映できればと考えている。

委員： プロギングのように楽しんでやるのが大事。先日、知り合いがダンボールをリサイクルステーションに搬入して、ポイントを貯めていた。たとえ1円1ポイントでもあるとないのでは取り組む気持ちが変わってくると思う。子供のときにお祭りが近くなると町内を走り回り、空き瓶などを集め換金してお小遣いにしていた。例えば、空き箱を拾う度に1ポイント、レアなごみを拾うと10ポイントなど面白おかしくできるようなものがあれば、子供たちもやると思う。毎朝のラジオ体操のように、夕方のごみ拾いなど夏休み期間中だけでも実施して最終的なポイントで優勝者を決めるなど、子供たちが参加できるプログラムを組むことが、市民が楽しく取り組んで、ごみがなくなっていくことに繋がるのではないかと考えている。

委員： 1つのキーワードとして「見える化」ということを、今後のポイントとして進めていければと思う。

委員： 環境の取組をどうにか面白さに変えていかないと広まっていけないと思っている。他の委員の方が言った具体例は良いアイデアだと思っており、何かポイントを貯めるとか別の要素もあるかもしれないが、何か1つ活動したら、それが評価される、面白さに繋がるということは大事だと思う。

委員： 自分がプロギングの活動をして思うことが、プロギングではなくても市民がごみ拾いをしていたり、身近な環境に目を向けていたりすることで、改めて何かするのではなく、日常で色々なことをされている方が大勢、いるのではないかと。こんなことを実践しているというアイデアを持ち寄って、環境フェアのようなことを身近にできたら、先ほどのポイントの話もするきっかけになると思う。今日の資料を見ると自分が全然知らない活動もあり、そういう活動に参加したいと思う。出前講座に興味があり、講座を受けることで気づく市民も大勢、いるのではないかと。そういうことを色々な方に知ってもらえるような工夫や発信をできることからやっていけたら良いと思う。

委員： どこの企業もそうだが、年に1, 2回は環境整備を全社員が必ずやるという位置づけの中で、環境整備含め環境問題に対して、地域密着という形で地域に何か貢献しようという企業があり、実践している。社員の中でもやらされ感でやっている人もいれば、率先してやっている人もいるので、一人ひとりがやらされ感でやるのではなく、ごみ拾い1つにしても、それが地球環境にどう影響していくのかということをしちゃんと理解できるような仕組みを企業としても進めて行かなければならない。また、委員会に参加して環境問題に接していくことになるので、率先して今いる事業所含めて一人ひとりに環境問題について面と向かって色々な形で指導をしていかなければならないと思っている。電気の会社としてZEB/ZEHによって省エネになると費用対効果も増えないが、環境問題で考えるとZEH/ZEBは進めて行かなければいけない。東京では家を建てる時に太陽光パネルを付けなさいということになっているので、将来的にはどこの地域でも家を建てる時には太陽パネルを付ける必要が出てくると思うし、自治体としても庁舎を建てる際は、ZEBを必ず入れて建てるということが多いと思う。また、環境問題については自治体は常にコスト面で考えていると思う。

3 その他

次回の開催日程について

9月3日に開催を予定している。詳細は、後日確定したものを皆様にご連絡したい。

4 閉会